



『花燃ゆ』に思いを巡らせて

校長 海 頭 巖

NHK大河ドラマの『花燃ゆ』になぞらえて、「来年はそれぞれが『花燃ゆ』年に・・・。」と締めくくった今年の学校だより第9号（12月22日発行）。あれから早一年が経ちました。どんな一年間をお過ごしになりましたか。きっと、子どもたちの日々の成長を喜び、子どもたちの将来への期待や思いに胸膨らませながら過ごされたことと思います。しかし、時には「親の言うことを聞かなくなったなあ。」とか「屁理屈を言うようになって困ったなあ。」などと、悩んだ日もあったのではないのでしょうか。

さて、『花燃ゆ』のオープニングのテーマ曲に、歌詞があることをご存知でしたか。私は、とある機会にテーマ曲に歌詞があることを知り、たいへん驚いた次第です。お恥ずかしい話ですが、「あ～あああ～」としか聞こえていなかったの、いつも「あ～あああ～」と歌っていたのです。そこで、早速歌詞について調べてみました。すると次のようなものでした。

愚かなる 吾れのことをも 友とめづ人は わかとも友（ども）と
 吾れをも 友とめづ人は わがとも友（ども）と めでよ人々
 吾れをも 友とめづ人は わがとも友（ども）と めでよ人々 燃ゆ

「何じゃこれ？」ということで、さらに調べてみると、松陰先生が処刑の二日前から書き始めた弟子たちへあてた遺言書（『留魂録』）の最後の歌（五首）の一首『愚かなる 吾れをも友と めづ人は わがとも友と めでよ人々』があり、これをテーマ曲の歌詞として使っていたことがわかったのです。この歌の内容は「愚かな私を友として大事に思ってくれた人がいるとしたら、私の友についても、私と同様に大事に思ってもらいたい。」といったものです。つまり、『自分がいなくなっても、自分の友だちを自分と同じように可愛がってやってください。』といった意味です。何と、自分の死を目の前にしても、両親・家族・同志・門下生を思いやる松陰先生の人柄のすばらしさに改めて感動しました。

平均視聴率約12%と低い値の『花燃ゆ』でしたが、山口県が舞台であったこともあり、萩をはじめ山口県を全国にPRでき、山口県を知っていただくいいチャンスだったことには違いありません。しかも7月5日に、萩の5つの資産を含めた『明治日本の産業革命遺産』として世界遺産に登録されたことが、萩や山口県の知名度アップに拍車をかけたことと思います。

『花燃ゆ』をご覧になっていた方はよくおわかりのことと思いますが、貧しい杉家で畑仕事を手伝っていた女の子（文）が、多くの友や家族を失いながらも強く生き抜き、最終回の鹿鳴館のシーンでは華やかなドレスに身をまとった美和（文）と夫楯取とが優雅にダンスをする姿は、未来への希望に満ちあふれ、幸せに輝いており、とても感慨深いものでした。

今年を振り返ってみて、子どもが親の言うことを聞かなくて困ったり悩んだりしたこともあったかもしれません。しかし、誰もが通っていく道程であり、子どもたちの成長の証しでもあるのです。そういえば、悩みも喜びへと変わっていくものだと思います。『せわ～ない』のです。

『学ぶこと、考えることが生きる力となる。』とドラマ中の美和の台詞のように、子どもたちが学び・考え、さらに生きる力を育んでくれる2016年であってほしいものです。ありがとうございました。よいお年をお迎えください。